

## 政務調査研究視察 報告書

平成19年 3月 13日提出

視 察 日	平成19年 2月 7日 (水)
視 察 先	東京都品川区
視 察 内 容	<b>区独自の特別教科「市民科」について</b>
視 察 者	野村康治、加納吉久、原田範次、竹下寅生、加藤学 <span style="float: right;">計 5 名</span>
品 川 区	<p><b>&lt;区独自の特別教科「市民科」について&gt;</b></p> <p>品川区では、平成18年4月から全ての区立小中学校で、小中一貫教育(共通の教育内容)を実施しています。小中一貫教育では、小学校6年・中学校3年という壁を取り払い、系統的、継続的教育活動を行います。</p> <p>子どもの心や身体の発達をふまえ、基礎・基本定着に重点をおく1～4年生、学力の定着を図り、個性・能力を伸ばす5～7粘性と8・9年の3つのステージでカリキュラムを編成しています。この考えは、4年生で小学校を卒業したり、5年生から中学校に入学したりすることではありません。品川区では、次のような『施設一体型一貫校』と『施設分離型連携校』の大きく二つのタイプで小中一貫教育を行っています。</p> <p>一貫校は、校長は1名、学校施設(校舎)、組織・運営ともに一体の小中一貫教育を行います。連携の形態は、各学校の実態や特色にあわせ「一つの中学校と一つの小学校」、「一つの中学校と複数の小学校」などがあります。立地条件も様々であるため、子どもたちや教員の交流方法や回数は一律ではありませんが、定期的授業交流、教員組織の連携、合同行事などで連携を深めながら子どもたちを指導します。</p> <p><b>小中一貫教育において人間教育をめざす新教科、「市民科」導入の背景</b></p> <p>～なぜ市民科が必要なのか～</p> <p>最近の子どもの規範意識や社会的マナー、公共心が低下しているとする指揮が極めて多い。このような状況の原因を突き詰めて考えてみると、子どもの人格形成に正面から向き合っていない教師も含めた私たち大人の問題が浮かび上がってくる。そして、学校は、目の前の子どもの姿を正しく捉え、「望ましい生き方」の自覚や「自分自身の生きる道筋を発見するための教養」の習得など、社会との関係における「我」を捉えさせてきたであろうか。</p> <p>このような考え方から、本区では「市民性」を育てる学習を小中一貫教育において創設した。</p>
	<p><b>[感想・岡崎市への反映]</b></p> <p>子どもが生きる力の道筋を一貫してできればよいが、私立では中高一貫教育の学校もあり、本市では範囲が広いので難しいと思われます。しかし、5～6年生から中学校と取り組むことが大事だと思います。</p>

## 政務調査研究視察 報告書

平成19年 3月 13日提出

視 察 日	平成19年 2月 8日 (木)
視 察 先	千葉市
視 察 内 容	子どもルームの運営について
視 察 者	加納吉久、原田範次、竹下寅生、加藤学 計 4 名
千 葉 市	<p>&lt;子どもルームの運営について&gt;</p> <p>千葉市では、子育て支援を総合的・効果的に推進するための新たな計画として「夢はぐくむ ちば子どもプラン」(千葉市次世代育成支援行動計画)を策定しました。これにより、次代を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、また、子育てに伴う喜びが実感されるように、総合的な支援を推進し、安心して子どもを海育てることができる環境づくりを目指しています。</p> <p>千葉市の子どもルームでは、昼間家庭に保護者のいない、原則として小学校1年生から3年生の児童を対象に、授業が終わった後の遊び及び生活の場を提供し、指導員の活動支援のもと、児童の健全育成を図るものです。</p> <p>放課後児童健全育成の事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、 共働きの家庭が増え、昼間家庭に保護者のいない子どもに原則として小学校1年生を対象に授業が終わった後の遊び、及び生活の場を提供し、指導員の活動支援のもとに始めた。</li> <li>2、 利用について、月～金まで</li> <li>3、 対象児童             <ul style="list-style-type: none"> <li>イ、千葉市に居住する、原則として一年生から三年生の児童</li> <li>ロ、保護者が就労等により、昼間家庭にいない児童</li> <li>ハ、おやつ代、児童一人当たり月額2,000円(利用料と別途徴収)</li> </ul> </li> <li>4、 利用申し込み、各区役所福祉事務所福祉サービス課             <ul style="list-style-type: none"> <li>イ、千葉市の人口は93万 1,603 人(381,090 世帯)</li> <li>ロ、全小学校数120校</li> <li>ハ、子どもルーム設置箇所100ルーム</li> <li>ニ、子どもルーム校内(55)校外(45)ある。</li> </ul> </li> </ol>
	<p>[感想・岡崎市への反映]</p> <p>本市でも、親と同居しない家庭が増え、共働きが増えています。私は低学年の子どもが帰る頃には、家にいることが大切だと思っていますが、現状に合わせたサービスは必要だと感じます。小学校の校舎が、そのまま会場になっている点が参考になりました。</p>

# 政務調査研究視察 報告書

平成19年 3月 13日提出

視 察 日	平成19年 2月 9日 (金)
視 察 先	三島市
視 察 内 容	森の小さなダムづくり事業について
視 察 者	野村康治、加納吉久、原田範次、竹下寅生、加藤学 計 5 名
三 島 市	<p><b>&lt;森の小さなダムづくり事業について&gt;</b></p> <p>ダムづくり事業とは、間伐材を使って、森の谷間に雨水や土砂をためる小さなダムを作り、水源かん養や土砂の流出を防ぐ森の役割を取り戻す活動です。</p> <p>ダムづくりの効果として、2つの面があります。</p> <p><b>【元気な森づくり(森づくり効果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地中の水をためて、地下水を育てる森ができる。</li> <li>○ 洪水や土砂が流れ出るのを防ぐ</li> <li>○ 森の放ってある、太陽の光を入れるために切った木(間伐材)を利用できる</li> </ul> <p><b>【みんなで森づくり(人づくり効果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ かんたんな作業、お金もあまりかからない →子ども、女性も気軽に参加 →多くの市民のみなさんに参加してもらい、みんなで森づくり体験をすることで、地下水を大切に する気持ちと活動を広げよう</li> </ul> <p><b>三島市の森林の状況</b></p> <p>三島市は、東に広がる箱根西麓など、森林面積が市の約 40%をしめ、その 70%がヒノキの人工林となっています。人工林は枝打ちや間伐などの管理が必要で、十分に管理していかないと、本来、森林が持っている働きを十分に発揮できなくなります。</p> <p>昔から「水の都」と呼ばれていた、三島市内の代表的な水辺は、かつては三島駅周辺を中心とした三島湧水郡から湧き出す豊富な湧き水がありました。</p> <p>昭和30年代から始まった湧き水の減少は、三島など周りの市・町の「水の使用の増加」と「都市化の進展」が大きな理由になっていると考えられます。</p> <p>三島湧水郡の復活に向けて、地下水涵養への取組みには以下の三つがあります。</p> <p>1、雨水浸透・貯留施設補助 2、森の少ないダムづくり事業 3、森林ボランティア推進事業</p>
	<p><b>〔感想・岡崎市への反映〕</b></p> <p>岡崎市も輝く水と緑がシンボルの市になったので、枝打ち、伐採をすることは大切だと思います。水源涵養をしないと、洪水や渇水の時に大変に困るし、自然災害が起きます。水と緑の大切さを特に思います。岡崎市の山間部である額田に活かせる事業で、とても参考になりました。</p>